◆循環器内科　　院　長　庄野弘幸

2020年度は、予想されたとおり新型コロナウイルスに振り回された一年となった。スタッフが加わることはなく、院長の私だけの体制であったため、心不全などの循環器疾患の入院患者を他診療科の医師へお願いすることとなった。

1．入院

入院患者のデータは、循環器疾患の患者に絞っての報告とする。

2020年度の循環器疾患患者の入院数は135名（ＣＰＡ例は除く）であった。入院患者の87％が後期高齢者であり、平均年齢が84±10歳（中央値は86歳）で前年度とほぼ同じであった。このうち死亡患者は13名で10％であった。死亡患者は、前年度同様全て75歳以上の後期高齢者であった。死亡患者の死因の内訳では、老衰と考えられる方が5例と最も多く、次いで心不全4例であった。

入院全体の疾患別内訳は、やはり心不全が最も多く、81名であった。その疾患の内訳は、虚血 13例、心筋症 24例、大動脈弁狭窄 17例、僧帽弁逆流 7例、心房細動 19例　などでＣＫＤ、心房細動の合併例が高率となっているようである。

心筋梗塞の入院は2名であった。急性期治療の目的で熊本市内の急性期病院へ転送となった急性心筋梗塞の患者が10名。なお、ＣＰＡＯＡ患者で虚血性心疾患を強く疑われる内因性心臓死の方が7名おられた。

急性大動脈解離は、入院で経過を診た方が2例、救急転送が3名で計5名であった。

その他の入院では不整脈に関連した患者が16名、血管疾患が4名であった。意識消失発作を伴うような低血圧の患者が6例と多くみられた。

当院全体の入院患者の半数以上の方が80歳以上となっているため、骨折などで入院される高齢者も多くなっている。その場合、心房細動、慢性心不全、大動脈弁疾患などの合併も多くなっている。

（表1）入院患者の疾患内訳　　（例）

急性心筋梗塞（転送を含む）	12
急性大動脈解離　（ＣＰＡを含む）	5
心不全	81
不整脈	16
狭心症、ＯＭＩ	6
血管疾患	6
弁膜症（心不全合併を再掲）	26

2．外来

外来では、2020年度も済生会熊本病院心臓血管外科から診療の支援をいただいた。

循環器内科の定期外来患者の多くは生活習慣病の患者である。毎月約800～900人診療を行っている。中でも糖尿病の症例は増加が著しく、約25％程度となっている。

外来で定期的にペースメーカーチェックを行っている患者は60数名であった。

循環器関連の検査は、新型コロナウイルスの影響で前年度より減少した。心電図：4,260件、トレッドミル：33件、ホルター：108件、心エコー：1,261件、負荷心エコー：6件、ＡＢＩ：101件、下肢血管エコー：197件、頚部血管エコー：140件、ヘッドアップティルトテストが146件であった。（表2）

（例）

	2019年度	2020年度
心エコー	1465	1261
ヘッドアップティルト試験	188	146
トレッドミル	29	33
ホルター	103	108
頚部血管エコー	125	140
下肢血管エコー	199	197
ＡＢＩ	119	101
心臓ＣＴ	11	13
血管ＣＴ&,ＭＲＩ	92	106